

解答例

- 1 以下の文章を読み、問1から問4について答えなさい。

出雲みどりさんは、建設会社に事務員として勤める29歳の初産婦（身長157cm、非妊時体重50kg）である。同じ会社に勤務する夫（32歳）と2人暮らしである。月経予定日を2週間過ぎても月経がみられず、朝の歯磨き時に強い吐き気を感じるため、本日9月19日、産婦人科クリニックを受診した。

- 問1 出雲さんの月経周期は28日型で、最終月経は7月30日から8月4日までだった。9月19日における出雲さんの妊娠週数と日数を答えなさい。

妊娠7週2日

- 問2 あなたは、診察後の出雲さんに今後の妊婦健康診査の受診について説明することになりました。定期妊婦健康診査の内容と受診回数についての説明を、出雲さんに伝える言葉で記述しなさい。

「①この度は、妊娠おめでとうございます。本日以降、②出雲さんとお腹のお子様の健康状態を把握・診査し、異常の早期発見に努め、健康状態に応じた適切な医療を提供するために定期的に受診をしていくことになります。妊娠11週末まではお子様の心拍動の確認と成長（BPD、CRLなど）を確認させていただきたいのもう1度受診していただくことになりますが、以降は③妊娠23週までは4週間に1回、妊娠24～35週までは2週間に1回、妊娠36週以降分娩までは1週間に1回受診するように推奨されていますので、それに合わせて受診をお願いします。定期健診では、④毎回の健診で前回の健診以降の心身の健康状態を尋ね、子宮収縮の自覚や胎動、妊娠に伴う不快症状、日常生活における不安や悩み、ご夫婦のお子様に向けた準備の様子などを確認します。また、⑤医師や助産師による診察、体重・血圧などの計測、尿検査、超音波検査、毎回ではありませんが血液検査、妊娠35週～37週までの間に1回膣入口部・肛門周辺に新生児の感染を引き起こす原因菌がないかを確認する培養検査を行います。」

- 問3 出雲さんは、その後妊娠16週に妊婦健康診査を受診し、「つわりがなくなり楽にはなりましたが、太ももの後ろに、太い血管が青黒く膨らんできていて、気にな

っています。育児書を読むと、胎動がある時期だと書いてあるのに、まだ感じないのですが大丈夫でしょうか。夫も私も実家が遠く、母はすでに亡くなっている
ので頼れる人がいません」と話した。あなたは、この後出雲さんにどのような説明
を行いますか。出雲さんが理解できる言葉で記述しなさい。

「①つわりが解消されて何よりですね。これ以降、食欲が増してくる可能性が考
えられますので、食べ過ぎにはくれぐれも注意してくださいね。ただ、②心配事
もおありのようですので、それについて少しお話をさせていただきますね。大腿
の後ろに、太い血管が青黒く膨らんでいるのは、③静脈瘤といって大きくなった
子宮が骨盤周辺の血管を圧迫し、下半身の血流が滞ることにより妊娠後期に生じ
ることが多いですが、④長時間の立位や、きついガードルによる身体の圧迫、急
激な体重増加、便秘なども症状を悪化させる原因になりますので、気を付けるこ
とと、⑤横になる時は足を高くして寝たり、ふくらはぎのマッサージや足首の曲
げ伸ばしなどを日常的に行ってみましょう。胎動については、出雲さんは⑥初産
婦さんですので、一般的には経産婦さんに比べて遅く、妊娠 20 週前後に感じるこ
とができると言われています。⑦もうしばらくその時を心待ちにゆったりとした
気持ちで過ごしてみましょう。出雲さんは、身近に頼れる人がいないということ
で、これもご心配ですね。⑧これからの妊娠中にどのように身体的な変化が起こ
るのか、⑨出産、育児をしていくうえでどのような準備が必要なのかが分かれば
不安も多少は軽減すると思いますので、まずは⑩母親学級や両親学級に参加して
みてはいかがでしょうか。」

- 問 4 出雲さんは、妊娠 26 週 0 日の妊婦健康診査を受診した。体重 62 kg、腹囲 80 cm、
子宮底長 24 cm、血圧 130/84 mmHg、尿蛋白（－）、尿糖（±）、浮腫（－）、Hb 11.2
g/dL、Ht 34.0%、空腹時血糖 90 mg/dL であった。この結果において、出雲さん
に必要な保健指導の項目をあげ、その根拠を記述しなさい。

保健指導項目：体重管理

根拠：非妊時の出雲さんは BMI が 20.3 の「ふつう」の体格に該当し、妊娠全期間
を通しての推奨体重増加量は、10～13 kg である。出雲さんは、妊娠 26 週で
既に 12 kg の体重増加があり、さらに増加が予測されるため、今後の体重管
理についての指導が必要である。

2 以下の文章を読み、問 5 から問 7 について答えなさい。

松江華さん（35 歳、初産婦）の妊娠経過は順調であった。本日、40 週 0 日。分娩開始から 12 時間が経過したが、子宮口は 3 cm 開大で、児頭の位置はまだ高く、固定していない。陣痛周期は 3 分で発作は 40 秒である。松江さんは苦悶様顔貌で呼吸法を行っており、「まだ産まれませんか。もうこれ以上頑張れません」と訴えている。胎児モニタリングはリアシュアリングで、児心音は右臍棘線上で聴取できた。推定体重は 3,480 g である。骨盤エックス線計測の結果、帝王切開が行われることになった。

問 5 帝王切開術の適応となった理由として最も考えられることは何か、答えなさい。

児頭骨盤不均衡

問 6 松江さんは帝王切開を受け、3,410 g の男児を出産した。児のアプガースコアは、1 分後 8 点（皮膚色－2 点）、5 分後 10 点で、経過観察のため、保育器に収容された。松江さんの帰室時のバイタルサインは、体温 36.7 °C、脈拍 76 回/分、血圧 124/72 mmHg であり、酸素マスクで 2 l/min の酸素を投与しており、経皮的動脈血酸素濃度（SpO₂）は 98% である。この状態において、最も優先すべき援助とその理由を記述しなさい。

最も優先すべき援助：（母子の経過が落ち着いているため）できるだけ早期に母子の対面や接触の機会が持てるようにする

理由：母子が出生直後できるだけ早期にお互いに触れ合い確かめ合うことは、母子関係を育む上で重要であるため

問 7 術後 2 日目の朝、本日の松江さんの受け持ち看護師であるあなたが訪室すると、松江さんから「もう少し頑張れば普通に産めたかもしれないのに、母親失格ですね」という発言があった。松江さんの発言に対する支援とその理由について記述しなさい。

発言に対する支援：早期に出産体験の振り返り（バースレビュー）を行う

その理由：①緊急帝王切開分娩後の母親は、経膈分娩や予定帝王切開分娩の母親に比べて出産体験を肯定的に受け止めることができない場合が多い。

②失敗感や自責の念が生じたり、自力で出産できなかったことで母親としての自信や自尊心の低下など否定的な感情に陥ることがある。③ 褥婦の心理を十分理解した上で ④ 出産体験をともに振り返り、⑤ 褥婦が思いを整理できるように支援する。

3 以下の問 8 から問 10 について答えなさい。

問 8 妊娠初期に妊婦が風疹に罹ると、どのような問題が生じるか、記述しなさい。

胎児が風疹ウィルスに感染し、先天性風疹症候群（CRS）を発症する可能性がある。児には、白内障、緑内障、先天性心疾患、感音性難聴、随伴症状として小頭症、精神発達遅延、肝脾腫が生じる。

問 9 愛着（アタッチメント、attachment）と絆（ボンディング、bonding）について説明しなさい。

①愛着は、児と重要他者（母親・父親・きょうだい・世話をする人）の相互作用の過程を示す概念である。① 1 人の人間に対する永続的な愛情と情緒が形成される過程とみなされ、親役割や親のアイデンティティの構成要素の 1 つである。① 親とこどもの愛着は、近接を期待し、維持することによって特徴づけられ、相互の満足した体験を通して 2 人間の正のフィードバックにより促進される。

②絆は、出産後すぐの親からこどもへの一方向性の過程として述べられ、愛着とは区別される。③ 親とこどもの絆形成において、出生直後の接触は重要であるが、③親とこどもの情緒的なつながりの形成は、出生直後だけでなく、その後長期にわたり形成されていくものであり、③絆は親とこどもの特異的で永続的な関係を示し、人間の愛着のうちで最も強力で重要なものである。

問 10 HPV（Human Papillomavirus）ワクチンの個別接種を推奨するための働きかけについて記述しなさい。

- ・ワクチン接種の意思決定支援を行うことであり、特に若い未成年者では本人と親のどちらに対しても支援をしていく。
- ・対象者が接種について検討・判断できるよう、ワクチンの有効性・安全性について丁寧な情報提供を実施していく。
- ・情報提供資材（リーフレット、啓発ポスターなど）を個別送付するなど対象者

への確実な周知に努める。

- ・ワクチン接種をした場合、子宮頸がんの発生を 60～70%抑制できるとされているが、100%ではないため定期的に性感染症と子宮頸がんの検診を受けるよう性教育などにより対象を教育する。
- ・検診率を高める啓発活動と同時に、検診結果の理解（細胞診の分類、子宮頸がんの進行度の分類、それらの区別などを一般女性が適切に理解することは難しく、不安が増大しパニックに陥ることもあるため）を促し、不要な不安を取り除く教育や情緒的サポートも行う。
- ・地域における HPV ワクチン接種にかかる診療・相談体制について、従来からある連携の枠組みを再活性化させる
- ・接種後の症状に対する相談支援体制・医療体制の維持・確保を行っていく
など

（第 28 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 資料 4 HPV ワクチンのキャッチアップ接種について 一部参照）

出題意図

[専門領域問題]

助産学コース

助産学を学ぶにあたり、妊娠期、分娩期、産褥期各期にわたる専門的な学力とこの領域で現在 topic となっている事柄への認識を問う。